

## 災害時の地域福祉に関わる愛玩動物看護師の実際～能登半島地震での多職種連携～

○佐山恭子<sup>1) 2)</sup> ○千葉利郎<sup>1) 3)</sup> ○西村 裕子<sup>1) 4)</sup>

- 1) 動物支援ナース 2) 学校法人国際総合学園 国際ペットワールド専門学校  
3) 石川県リーフ動物病院 4) 千葉科学大学 動物危機管理教育研究センター

【はじめに】令和6年元旦に発生した地震において、能登町では最大震度7を観測し家屋倒壊、道路破損など甚大な被害となった。また新潟市でも震度5強を観測。液状化による建物被害は西区に集中していた。私たちはこれまで、居住地での活動を主としてきたが、愛玩動物看護師法の業務範囲の中で「災害発生時の被災動物適正飼養の支援と地方自治体との連携協力」が主務省から示された<sup>1)</sup>こともあり、初めての試みとして被災地派遣を行った。災害時の地域福祉に関わる中で、飼い主の適正飼養を継続するため支援や住民の安心に配慮した活動のほか、様々な団体や専門職と連携し活動を行ったので報告する。

【背景】動物支援ナースは、千葉科学大学における獣医療災害支援人材養成プログラムを修了した愛玩動物看護師で構成される災害支援チームであり、2018年11月に発足。2024年現在の隊員数は、約100名。今回の活動は石川県支部、同様に被災した新潟県支部を中心に活動を展開。月1回の訪問のため、能登半島にベースを置く青年海外協力協会（以下：JOCA）と日本レスキュー協会と連携し現在も訪問支援を継続中。

【活動実際】発災直後は、それぞれで情報を取り、それが隊員同士のオンラインコミュニケーションツールに集約されていく仕組みがある。その情報を基に各自が支援を考える。1月に新潟県支部の隊員が、ボランティアセンターにて活動とペット相談ポスターの掲示を実施。その後タイミングを図り3月上旬に被災地支援に入った。仮設住宅への移動が始まった時期で、能登町にベースを置き活動をしているJOCAと共に、仮設住宅の住民への挨拶や、ペットの電話相談と月1回の訪問を実施するポスター掲示から始めた。その後は隊員で交代しつつ被災地に入り仮設住宅での見守り支援を継続。また地域住民からの声をもとに、苦情対策やノミダニ予防、熱中症対策なども実施。スポットの活動としてボランティアトリミングと猫の捕獲、訪問看護シェルターの支援や金沢市での防災セミナー、ペット預かりを実施している団体への物資支援、動物のシェルターの支援も実施した。

【活動結果】令和6年3月～11月までの被災地訪問回数15回、訪問日数計28日、訪問隊員数9名（1回平均1～2名）連携獣医師2名、その他ボランティア同行者5名。訪問している仮設住宅は、能登町を中心に5地区、ペットと共に暮らす28世帯の見守りを継続。継続活動における連携団体は2団体、その他スポット団体、自治体、社協など多数。

こうした活動が実施できたのは、国家資格化により災害時の立ち位置や実施内容が明確になったことが大きい。私たちの領域は法により広がったと言えるだろう。今回の活動がロールモデルとなり、11月より令和6年7月山形豪雨で被害のあった鮭川村と戸沢村の仮設住宅見守り支援が始まる。専門職として長期的な視点で被災地に寄り添っていきたい。

- 1) 環境省・農林水産省：愛玩動物看護師の業務範囲の考え方（イメージ）